



Vol.46

## 恐ろしいもの

「地震雷火事親父」——最近は滅多に聞かなくなつた恐ろしいものの代表格です。恐ろしいものは時代によつて変わるようで、古代の人々がイメージした恐ろしいものは、また別のものだったようです。

この歌は、境部王という奈良時代の皇親貴族が「数種の物」を詠んだ歌として万葉集に採録されていますが、詠まれているものは、どれも「恐ろしいもの」ばかりです。

古屋は、古くなつて鬼が住みついたような家を指すとされます。青淵は、青々とした水淵のことで、『枕草子』にも恐ろしいものとして記述されています。蛟龍は、蛇のような姿の想像

虎に乗り 古屋を越えて 青淵に  
蛟龍とり来む 剣大刀もが

境部王

卷十六

三八三三番歌

【訳】虎に跨がつて古屋を飛び越えていつて、青淵に住む蛟龍を生捕りにして来るような剣大刀がほしい。

上の動物で、『日本書紀』仁徳紀に、淵に住む虬(蛟龍)が毒を吐いて人々を苦しめたとあります。蛟龍が住む所が淵とされたため、「青淵」にも恐ろしいイメージがついたのでしょうか。

乗り物として歌われている虎もまた、恐ろしい動物でした。虎は、日本には生息していませんが、古代にも虎の毛皮や虎にまつわる逸話が中国・朝鮮半島から日本に入ってきていました。虎の大きさや力強さなどは、よく知られていたことでしょう。

そのような恐ろしい虎を乗りこなす、蛟龍を生け捕りにできるような剣大刀がほしいと歌った境部王。彼自身が歌のように勇敢な人物だったのか、勇敢になれる自分を奮立たせたかったのか、それとも、ただ与えられたお題に沿って歌を詠んだだけ



けなのか：いずれにせよ、恐ろしいものに対して勇敢でありたいと願う気持ちには、古代でも現代でも変わることがないようです。

(本文 万葉文化館 吉原啓)

信貴山 朝護孫子寺  
寅まつり

万葉ちゃんの  
つぶやき  
和歌に関連するものを紹介するよ!!



万葉ちゃん



時 2/24(土)・25(日) 9時~17時  
問 信貴山 朝護孫子寺 ☎0745-72-2277  
www.sigisan.or.jp/

聖徳太子が物部守屋討伐の戦勝祈願のため信貴山を訪れた時、毘沙門天王が出現したといわれています。その日が寅年、寅日、寅の刻であったことから、信貴山の毘沙門天王は寅に縁のある神として信仰され、朝護孫子寺の境内には大きな張り子の寅「世界一福寅」があります。  
寅の月といわれる2月には「信貴山寅まつり」が開催され、多くの人が訪れます。